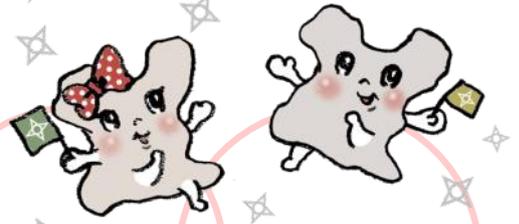


回									
覧									

つながる  
Vol. 44  
輪・和・WA...  
わ  
輪・和・WA...



発行：盛岡市市民部市民協働推進課

〒020-8530 盛岡市内丸12-2

TEL：019-626-7500（直通）

E-mail：kyodo@city.morioka.iwate.jp

（平成27年8月発行）



「自分達の地域はみんなで守る」

盛岡市消防団女性消防隊

10月15日に横浜市で開催される全国女性消防操法大会。盛岡市消防団女性消防隊（藤澤トミ隊長・隊員数56人）は岩手県代表として出場する。

軽可搬ポンプ操法は、5人でチームを編成。機関（ポンプ）と吸水、ホース延伸、放水の火災現場で必要とする操作を迅速、安全かつ確実に、標的を倒すまでのタイムを競う。「女性消防隊としてポンプ操法に取り組むのは初めてだが、全国大会出場を機に選手たちは仕事が終わってから夜に集まり、一生懸命がんばっている」と藤澤隊長。「自分達の地域はみんなを守る」という熱い思いを結集して団結して取り組む隊員たちは、家族や職場の仲間、そして地域の応援を受けて懸命に訓練を重ねている。



7月30日に開催された「学ぼう災!!」。段ボールで簡易トイレを作るプログラムは子どもと一緒に楽しく体験した

## 地域での支え合いを推進 課題解決を支援します

社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会は「地域での支え合い」を推進している。

平常時から防災を学ぶ取り組みの一つが「学ぼう災!!」。大人も子供も一緒に楽しく学べる体験型の支え合いの学習会で、今年は段ボールで簡易トイレを制作した。「ほかにも段ボールのいすや新聞紙で簡易食器やスリッパをすることもできる」と同協議会地域づくり推進員の稲葉青江さんと大坊由子さんが紹介する。

また普段からの支え合いや災害時の支援に活用できる「支え合いマップ」の作成を勧める。このマップはひとり暮らし高齢者や障がい者などの「気になる人」を地図に色分けして表示するもの。作成する過程で地域の課題が浮き彫りになり、解決策を探る話し合いのきっかけになることを期待している。

【社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会】  
<http://www.morioka-shakyo.or.jp/>  
電話:019-651-1000



AEDを用いた一次救命処置のほか、けがの手当、傷病者の搬送、災害救援なども学ぶことができる(写真:日本赤十字社岩手県支部提供)

## 救急法講習や防災教育事業で 地域の自助・共助を支援します

日本赤十字社では、町内会などの要請に応じて赤十字救急法や幼児安全法、健康生活支援講習などの指導員を派遣。一次救命処置や応急手当、乳幼児や高齢者の生活支援など、災害時にも役立つ確かな知識と技術を普及している。

防災教育事業の研究も進めており、過去の災害を振り返って追体験したり、災害を図上でイメージして訓練したりする「日赤防災プログラム」は1月に全国で2例目としてアイーナで実施した。

「防災教育事業は地域で学習しやすい内容で展開したい」と話す同社岩手県支部の岩崎満さん。「日本赤十字社は東日本大震災の復興支援に取り組んでいるが、地域における自助・共助の取組も推進している。赤十字の講習を地域で気軽に体験してほしい」と呼び掛けている。

【日本赤十字社岩手県支部】  
<http://www.iwate.jrc.or.jp/>  
電話:019-638-3610

災害発生時に大きな力を発揮するのは、地域のチカラです。今号では、地域の自助・共助の力を高める自主防災活動・防災学習に役立つ民間組織の取組を紹介します。



7月11日の「地震」の講義では地盤探査を実験。表面波高精度探査装置で模擬地震の振動の伝わり方や地盤解析の最新技術を学んだ



5月8日の講座では、避難所の実際を想定。段ボールを使って仕切りの高さの違いを体感した(写真:参画プランニングいわて提供)

## 地域活動を牽引し、連携できる リーダーを専門的に育成します

岩手大学は地域防災や震災復興に資する研究と教育に全学部が連携して取り組む「地域防災研究センター」を設置している。

防災リーダー育成プログラムは9年目でこれまで135人が受講した。地震や火山、洪水などの専門知識や防災学習の進め方などを全15回に渡り大学の教員が指導。同大学に認定され、地域に輩出された防災リーダーは80人を超える。

自主防災組織や関係機関での実践力を養う防災危機管理エキスパート育成講座は9月から開講の予定。「災害時には組織を超えて調整・連携できる人材が必要。岩手大学が核となりオールいわてで人材を育成し、人材の繋がりを作りたい。ぜひ受講してほしい」と呼び掛ける越野修三教授。大学での講習のほか、学校や地域団体などへ出向いた活動も展開している。

【岩手大学地域防災研究センター】  
<http://rcrdm.iwate-u.ac.jp/>  
電話:019-621-6448

## 地域にあった避難所運営の マニュアル作りを支援します

特定非営利活動法人参画プランニング・いわてでは「命とくらしを守る避難所運営ガイドライン」を発行した。男女共同参画の視点を取り入れ、内閣府や盛岡市町内会連合会などと連携して取り組んだものでウェブサイトでも公開している。5月8日には、みたけ地区活動センターで避難所運営に関する出前講座を実施した。

「都市部か農村部か、地域にどんな人が暮らしているかなど、地域の事情は大きく異なっている。ガイドラインを活用して、個々の地域の実情にあった避難所運営マニュアルを作してほしい」と期待する参画プランニング・いわての皆さん。経費や日程の相談を要するものの、今後も町内会やコミュニティ地区に出向いた講座や支援も展開していきたいと意気込みを表している。

【NPO法人参画プランニング・いわて】  
<http://www.sankaku-npo.jp/>  
電話:019-604-3303(もりおか女性センター)



## News & Topics

# スポーツの力と市民の力が一堂に モリモリ大博覧会

7月12日、市アイスアリーナで「スポーツの力!市民の力!モリモリ大博覧会」が開かれました。

広報ボランティアによるわんこダンスの披露のほか、競技団体の協力によるスポーツ体験、手づくりおもてなし記念品「さんさ踊りとふっちストラップ」の制作など設けられたブースも盛りだくさん。来場者は間近に迫った国体に向けて期待を高めていました。



広報ボランティアとしてわんこダンスを普及するYUI、FITNESS KID'Sの皆さんによるステージ発表



一つひとつ丁寧に心を込めて、おもてなし記念品制作体験)



熱心な質問も相次いだ(ピームヒストルの体験)



## 補助金・助成金情報

### 赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金2」助成事業 被災地住民支え合い活動助成

岩手県共同募金会は、東日本大震災の復興に向けて、コミュニティ再興のために支え合い活動を行う住民団体等への助成事業を実施しています。

◆**対象団体**：県内で復興支援のため支え合い活動を行う住民団体など

◆**対象活動**：被災者が新たなコミュニティを形成するための復興活動として行う生活支援やサロン活動、住民交流事業など

◆**助成金額**：1団体1回あたり10万円を上限

◆**応募方法**：所定の応募書に必要事項を記入し、市町村共同募金委員会（市町村社会福祉協議会）へ持参ください。

募集要項などはホームページ (<http://www.akaihan-iwate.or.jp>) に掲載しています。  
詳しくは社会福祉法人岩手県共同募金会（019-637-8889）へお問い合わせください。



## 企業の社会貢献として 消防団協力事業所表示制度

盛岡市は、盛岡市消防団に積極的に協力してくださる事業所等に「消防団協力事業所表示証」を交付し、当該事業所等の社会貢献をPRしています。

対象は従業員が消防団員として2人以上入団している事業所や従業員の消防団活動について積極的に配慮している事業所など。この制度は地域の住民や事業所等からの消防団への理解を一層深め、消防団員の入団促進を図るための制度です。詳しくは危機管理防災課消防対策室（019-626-7404）へ問い合わせください。

### 【協力事業所（2015年7月現在・順不同）】

(株)石田商会、(有)渡辺電気、(有)親和自動車整備工場、東亜道路工業(株)東北支社岩手営業所、樋下建設(株)、(株)昭和建設、昭栄建設(株)、(株)石名坂、(株)ウォーターエージェンシー東北北営業所、(社福)岩手県社会福祉協議会、(株)タカヤ、北日本機械(株)、三陸土建(株)